

第 4 2 回

全 国 育 樹 祭

T O K Y O 2 0 1 8

実 施 計 画



育樹から 木のある暮らし つないでく

平成 3 0 年 2 月

東 京 都

目 次

第 1 章 開催概要

1 全国育樹祭の目的	3
2 開催方針	3
3 大会テーマ等	6
4 開催概要	7

第 2 章 お手入れ行事計画

1 お手入れ行事の概要	9
2 お手入れ会場計画	12

第 3 章 懇談会計画

第 4 章 式典行事計画

1 式典行事の概要	15
2 メインテーマアトラクション	17
3 式典会場計画	20
4 飾花・木製工作物計画	25
5 TOKYOおもてなしコーナー	29
6 昼食計画	30

第 5 章 併催行事計画

1 育林交流集会	31
2 全国緑の少年団活動発表大会	32

第 6 章 記念行事計画

1 森林・林業・環境機械展示実演会	34
2 その他の記念行事	36

第 7 章 都民育樹行事計画

目 次

第 8 章 運営計画

1 方針	39
2 実施本部計画	39
3 参加者・宿泊・輸送計画	39
4 受付計画	40
5 大会用品・記念品計画	40
6 医療・衛生計画	41
7 消防・防災・警備計画	42
8 雨天・荒天時対応計画	43
9 協賛計画	43

第 9 章 開催準備スケジュール

44

1 全国育樹祭の目的

全国育樹祭は昭和52年から毎年秋季に行われている国民的な森林・緑の祭典です。天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木を皇族殿下がお手入れされる育樹活動のシンボリック行事と、皇族殿下によるおことばや各種表彰等の式典行事等を通じ、健全で活力ある森林を育て、次の世代に引き継ぐことの大切さを伝えていきます。

2 開催方針

東京は、江戸幕府が開かれて以降400年にわたり、日本の中心として発展を続ける、世界有数の大都市です。古くから森林や木材と深くかかわり、都市づくりの資材・燃料として森林の恵みを大いに利用してきました。

しかし近年、都市の膨張による森林の減少、生活様式の変化等により、それらは私たちの生活から遠い存在となりました。このような中、東京都は、「森がささえる暮らし、都市がはぐくむ緑とうきょうしんりんせいかつ－東京森隣生活」をテーマとして、平成8年に全国植樹祭を開催しました。これを契機に、森を守り育て、普段の生活の中にも森を意識する機会を創出するなど、都民の中に広く森づくりに対する機運の醸成を進めています。

このとき、会場となった「海の森」は、その後も植樹が続けられ、海に浮かぶ美しい森に生まれ変わろうとしています。また、私たちの身近な公園や街路樹等の緑は拡大し、都市に住む人々にうるおいと安らぎを与えています。

一方、都市の上流に位置する森林は、木材の供給だけでなく、水源のかん養や災害の防止、二酸化炭素の吸収、レクリエーションの場の提供等の多面的な機能により都民生活に貢献しています。また、子供たちを中心とした木育活動等の環境教育、CSR活動やボランティア活動の場としても活用されています。今後もこれらの機能を十分に発揮するためには、適切な森林整備により伐採・利用・植栽・保育という循環を継続するとともに、循環の一翼を担い、中心となって森林を守り続けていく林業の振興が不可欠です。

しかし、東京の森林はその多くが、すでに伐採、更新の時期を迎えているにもかかわらず、長期にわたる木材価格の低迷等により、伐採が進まず、木材として活用されていません。森林の循環が停滞することで、林齢構成が高齢の樹木に偏り、特に奥地では手入れが行き届かない森林が増加しています。また、急峻な地形が多いという制約によりコスト削減が進まず、森林・林業の担い手不足も一層深刻化するなど、多くの課題を抱えています。

そこで、都は、スギ林の伐採・更新を行うスギ花粉発生源対策や林道等基盤整備など、森林の整備保全と林業振興を図るため、様々な対策を講じるとともに、「とうきょう林業サポート隊」や「とうきょう森づくり貢献認証制度」など、都民や企業が積極的に森づくりに参加できる仕組みを構築してきました。今では、停滞していた伐採や材の搬出、植栽による森林の更新が促進されるなど、森林・林業の再生に向けた循環が動き始めています。

全国育樹祭の東京開催は、こうした森林再生に向けた動きを加速させていく絶好の機会となります。第42回全国育樹祭は、森を育て、木を使うことによる持続可能な暮らしを未来へつないでいくという想いを込め、「育樹から 木のある暮らし つないでく」を大会テーマとして開催します。全国育樹祭の開催により、森づくりへの機運を一層高め、森林整備や木材利用を促進し、木材の大消費地東京ならではのメッセージを全国に発信していきます。

1点目は、木材の供給をはじめ、水源のかん養や災害の防止、CO₂の吸収による地球温暖化の緩和など、森林は、世界有数の大都市である東京の活動と暮らしを支えるかけがえのない財産であること

2点目は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連施設等での木材利用の推進など、東京のまちづくりに多摩産材をはじめ日本全国の豊富な森林資源を有効に活用することで、森林循環の促進につなげていくこと

3点目は、全国育樹祭は、江戸が東京となって150年の節目に開催されることを踏まえ、江戸のまちを繁栄に導いた、日本が誇る木材利用の文化を将来にわたり継承していくこと

第42回全国育樹祭において明確なメッセージを発信し、都民の森づくりへの参加の拡大、東京における林業・木材産業の成長につなげ、健全で活力ある森林と緑豊かな大都市東京を次世代に引き継いでいきます。

第42回全国育樹祭
大会テーマ : 育樹から 木のある暮らし つないでく

木材の大消費地 東京ならではのメッセージを全国に発信

■ 木材供給・水源かん養・CO₂吸収による温暖化の緩和など、森林は、世界有数の大都市東京の活動と暮らしを支えるかけがえのない財産

■ 東京2020大会関連施設等での木材利用推進など、東京で日本全国の豊富な森林資源を有効活用することにより、森林循環を促進

■ 江戸から東京となって150年の節目での育樹祭開催となることを踏まえ、日本が誇る木材利用文化を将来にわたり継承

森づくりへの機運の醸成、森林整備・木材利用の促進

- ◎ 森を育て、木を使うことによる持続可能な暮らしを未来へつなぐ
- ◎ 健全で活力ある森林と緑豊かな大都市東京を次世代に継承

第47回全国植樹祭（東京都開催）について

東京都では、森と都市の関わりを見つめ直し、森と人との新たな共生関係を築き上げていくための機会として、平成8年に天皇皇后両陛下の御臨席を賜り、「第47回全国植樹祭」を開催しました。

【開催概要】

開催テーマ：森がささえる暮らし、都市がはぐくむ緑—東京森隣生活 とうきょうしんりんせいいかつ

開催日：平成8年5月19日（日曜日）

参加者：約12,000人

会場：・山の森・・・檜原都民の森
・街の森・・・辰巳の森海浜公園
・海上の森・・・中央防波堤内側埋立地 の3箇所を実施



天皇皇后両陛下によるお手植え（海上の森）



天皇皇后両陛下によるお手まき（街の森）

3 大会テーマ等

■ 大会テーマ

育樹から 木のある暮らし つないでく

はぶち としのぶ
作者 羽瀧敏伸さん（東京都渋谷区）

（講評）

樹を育てることによって、木のある暮らしが守られ、次代につながっていくことを表現しています。

木を身近なものとする私たちの日常の生活が森林循環の一翼を担い、森林を守ることに繋がっていくというメッセージが感じられます。

■ シンボルマーク

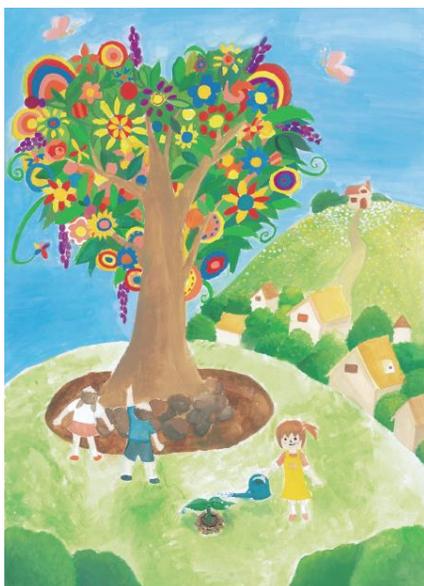
もりひでお
作者 盛秀雄さん（青森県青森市）



（講評）

「TOKYO」の文字を葉脈にさりげなく入れつつ、デザイン全体で森林の循環を上手に表現しています。普段の生活の中で育樹に親しみ、森を守っていかうという想いが感じられる作品です。

■ ポスター原画



かまなか ことみ
作者 鎌仲思実さん

（練馬区立開進第三中学校2年）[応募時]

（講評）

明るい作風で仕上げられており、ポスターにした時の華やかさやインパクトを感じます。

子供らしい雰囲気の中でも、しっかりと育樹が表現されており、未来に向かっていく距離感なども上手に組み込まれています。大会テーマとの相性もよく、ポスターとしてふさわしい作品です。

4 開催概要

(1) 全国育樹祭行事

■ 主催／東京都、公益社団法人国土緑化推進機構

● お手入れ行事 [平成30年11月17日 (土曜日)]

- ・会 場：海の森公園予定地 (中央防波堤内側埋立地)
- ・内 容：皇族殿下によるお手植え樹木のお手入れ

● 式典行事 [平成30年11月18日 (日曜日)]

- ・会 場：武蔵野の森総合スポーツプラザ (調布市)
- ・内 容：皇族殿下のおことば、緑化功労者等の表彰、
緑の少年団活動の発表、メインテーマアトラクション、大会宣言など

(2) 併催行事

■ 主催／東京都、公益社団法人国土緑化推進機構

● 育林交流集会 [平成30年11月17日 (土曜日)]

- ・会 場：青梅市総合体育館 (青梅市)
- ・内 容：全国の森林・林業関係者による、講演やパネルディスカッション等

● 全国緑の少年団活動発表大会 [平成30年11月17日 (土曜日)]

- ・会 場：八王子市南大沢文化会館 (八王子市)
- ・内 容：全国から選出された緑の少年団と都内の緑の少年団が、日頃の活動を発表

(3) 記念行事

■ 主催／東京都、一般社団法人林業機械化協会

● 森林・林業・環境機械展示実演会 [平成30年11月18日(日曜日)・19日(月曜日)]

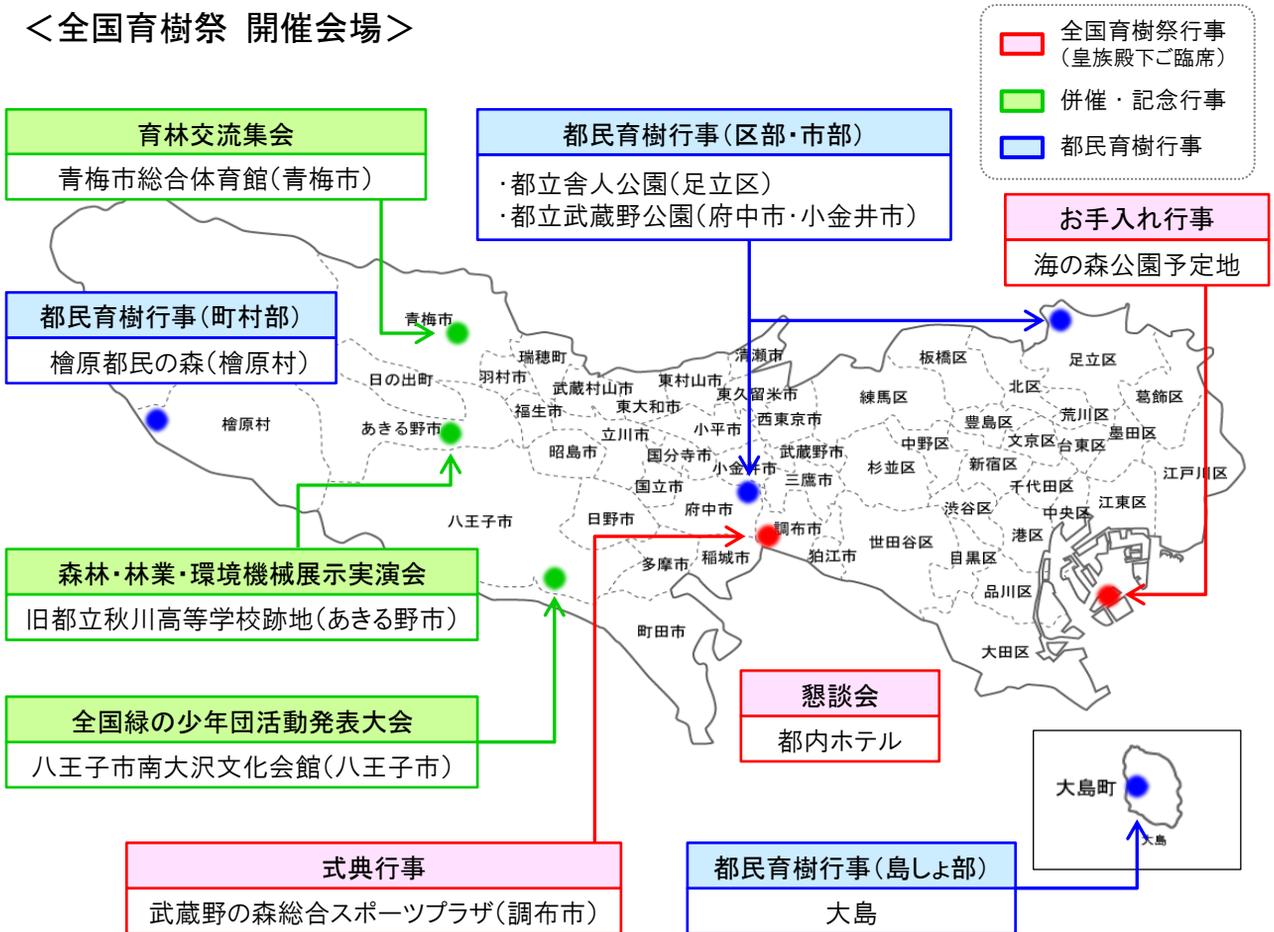
- ・会 場：旧都立秋川高等学校跡地 (あきる野市)
- ・内 容：国内外のメーカーによる最新の森林・林業・環境機械の展示・実演

■ その他の記念行事

(4) 都民育樹行事

- ・平成30年4月15日 (日曜日) 都立武蔵野公園 (府中市・小金井市)
- ・ 5月20日 (日曜日) 大島 (大島町)
- ・ 5月27日 (日曜日) 都立舎人公園 (足立区)
- ・ 8月25日 (土曜日) 檜原都民の森 (檜原村)

<全国育樹祭 開催会場>



<行事日程のイメージ>

平成30年			
4月～8月	11月		
	17日(土曜日)	18日(日曜日)	19日(月曜日)
都民育樹行事	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; display: inline-block;">お手入れ行事</div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 10px;">懇談会</div>	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; display: inline-block;">式典行事</div>	
	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; display: inline-block;">育林交流集会</div>	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; display: inline-block;">森林・林業・環境機械展示実演会</div>	
	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; display: inline-block;">全国緑の少年団活動発表大会</div>		

1 お手入れ行事の概要

平成8年「第47回全国植樹祭」から約20年が経過し、当時何もない埋立地であった会場は、植樹した木々が成長した立派な森に生まれ変わっています。これらの木立の中で、天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木を皇族殿下にお手入れしていただき、「森林を育て次の世代に引き継ぐこと、親が植え子が育てること」の象徴的行事として、全国育樹祭の開催理念を全国に発信します。

- (1) 開催日／平成30年11月17日（土曜日）午後（予定）
- (2) 会場／海の森公園予定地（中央防波堤内側埋立地）



海の森（仮称）構想 鳥瞰図
（東京都港湾審議会答申時点のイメージ図）

- (3) 参加人数／200人程度

主な参加者

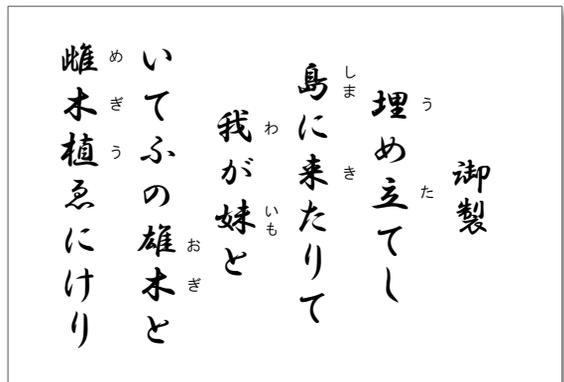
皇族殿下、
参議院議長（大会会長）、農林水産大臣、林野庁長官、
国土緑化推進機構理事長、
都知事、都議会議員、東京都関係者、区市町村関係者、
林業・木材関係団体代表者等

(4) お手入れ行事次第

1 都知事等による記念育樹活動	
	記念育樹活動（会場内の樹木に施肥）及び 記念撮影
2 お手入れ行事 <皇族殿下ご臨席>	
	皇族殿下 御着 先導 都知事等
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第47回全国植樹祭（平成8年）の<small>ぎよせい</small>パネル写真、御製の碑、 お手植え樹木を御覧 説明：都知事 ・ お手入れ（枝打ち・施肥） 介添え 東京都森林組合職員 ボーイスカウト ガールスカウト ・ 介添え者に対するお声掛け
	皇族殿下 御発 先導 都知事等
3 参加者による育樹活動	
	育樹活動（会場内の樹木に施肥）



御製の碑とお手植え樹木（イチヨウ）



御製（第47回全国植樹祭において天皇陛下が詠まれた和歌）

■ お手入れ内容

- お手入れ対象樹木 【樹種】 イチョウ（天皇皇后両陛下お手植え樹木）
【樹齢】 23年生（平成30年秋季時点）
- お手入れ内容 皇族殿下による枝打ち、施肥



お手入れ行事（枝打ち）／群馬県の例



お手入れ行事（施肥）／山形県の例

お手植え樹木について

<イチョウ>

イチョウ科の落葉針葉樹で、1億年前から生きのびており、生きている化石といわれています。「都の木」に指定され、都内には「神宮外苑のイチョウ並木」などのイチョウの名所が数多くあります。

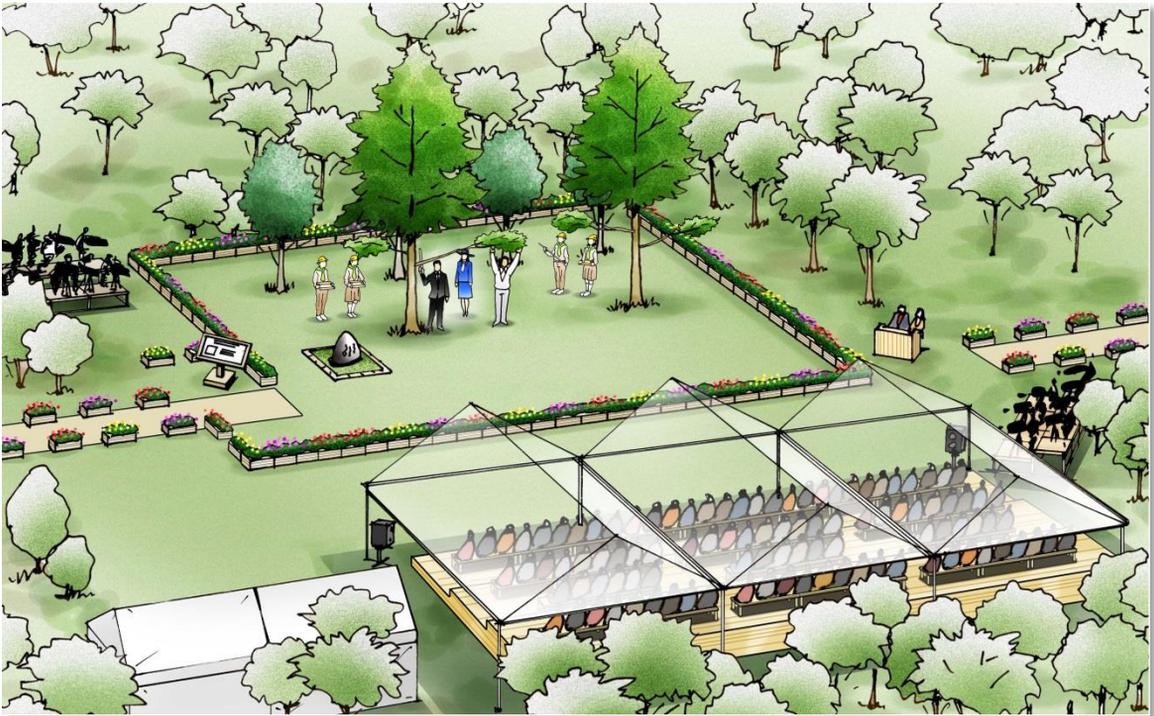
<スダジイ>

ブナ科の常緑広葉樹で武蔵野の各地に植えられており、伊豆諸島では群集を形成しています。枝を大きく広げた姿は、重厚で落ち着いた雰囲気があります。

<オオシマザクラ>

バラ科の落葉広葉樹であり、名前は伊豆大島に由来します。春には白い花と若葉が同時に開き、その調和が美しいサクラです。日本各地で広く親しまれているソメイヨシノは、オオシマザクラとエドヒガンをかけあわせたものです。

2 お手入れ会場計画



- 安全・セキュリティ面から警戒エリアを設定し、金属探知機による入場管理を行います。
- 会場には、仮設トイレを設置するとともに、雨天・寒さ対策として、参加者席及び控室等にテントを設置します。
- 「お手入れ行事」で皇族殿下が使用する鋤等のお手入れ道具くわには多摩産材を使用します。
- 飾花には都内産の花を使用し、会場を彩るとともに、参加者の安全かつ円滑な動線が確保できるように配置します。また、プランターカバーは多摩産材を使用します。



お手入れ道具／埼玉県の例



プランターカバー／京都府の例

懇談会の概要

皇族殿下のご臨席を仰ぎ、全国育樹祭での各種表彰者に祝意を表する場として、懇談会を開催します。

- 開催日／平成30年11月17日（土曜日）夕刻（予定）
- 会場／都内ホテル
- 参加人数／300人程度

主な参加者

皇族殿下、
参議院議長（大会会長）、農林水産大臣、林野庁長官、
国土緑化推進機構理事長、
都知事、都議会議長、東京都関係者、区市町村関係者、
緑化功労者、林業・木材関係団体代表者等



懇談会／岐阜県の例

次 第
開宴の言葉（都議会議長）
主催者あいさつ（参議院議長（大会会長））
乾杯（都知事）
皇族殿下による緑化功労者等へのお声掛け、 歓談
閉宴

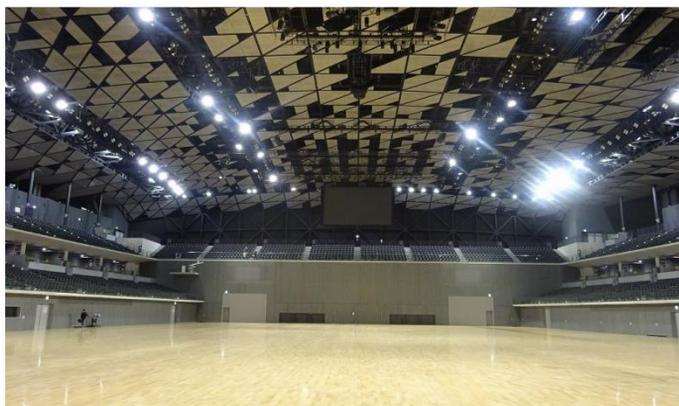
1 式典行事の概要

- (1) 開催日／平成30年11月18日（日曜日）10:00～12:30（予定）
- (2) 会場／武蔵野の森総合スポーツプラザ（調布市）
- (3) 参加人数／5,000人程度

【内 訳】

区 分	人 数
中央参加者	200人程度
都内林業・木材産業関係者	1,600人程度
都外林業・木材産業関係者	700人程度
一般公募参加者	1,000人程度
出演者・実施本部員等	1,500人程度
合 計	5,000人程度

<武蔵野の森総合スポーツプラザ>



メインアリーナ（約4,900㎡）

(4) 式典行事次第

1 プロローグ	
オープニングアトラクション	～ようこそ！豊かな自然に恵まれた首都・東京へ～
武蔵国府太鼓	武蔵国府太鼓連盟
東京ゆかりの童謡メドレー	式典会場近隣自治体の学校で編成した合唱隊による「春の小川」「花」「赤とんぼ」「夕焼け小焼け」4曲の合唱
映像上映	全国育樹祭への取組及びお手入れ行事紹介映像
2 式典 <皇族殿下ご臨席>	
皇族殿下御着	都知事による先導
開会のことば	国土緑化推進機構 副理事長
三旗入場	都内緑の少年団
国歌独唱・三旗掲揚	森麻季（オペラ歌手）
主催者あいさつ	参議院議長（大会会長）、都知事
歓迎のことば	都議会議長
皇族殿下のおことば	
表彰	緑化功労者等に感謝状を贈呈
緑の贈呈	全国の緑の少年団に東京の各地域を象徴する苗木を贈呈（イチヨウ、コナラ、ヤマザクラ、ヤブツバキ）
緑の少年団活動発表	都内緑の少年団
メインテーマアトラクション	～東京150年！森を育て木を使うことによる持続可能な暮らしを未来へ～
大会宣言	国土緑化推進機構 理事長
次期開催県あいさつ	沖縄県
閉会のことば	調布市長
皇族殿下御退席	合唱隊による「旅立ちの日に」の合唱
3 エピローグ	
エンディングアトラクション	～育てよう！森林・林業を支える未来の担い手たち～
ビデオメッセージ	東京で林業や木材産業に携わる若者・女性からのビデオメッセージ
フィナーレ	出演者・来場者全員による「花は咲く」の合唱

(2時間30分程度)

2 メインテーマアトラクション

(1) アトラクションのコンセプト等

■ 東京 150年！森を育て木を使うことによる持続可能な暮らしを未来へ

- 各フェーズは父・娘（小学校高学年程度）の親子のナビゲーターのやりとりによって進行します。

(2) アトラクションの内容

■ フェーズ1：木材利用によって育まれた江戸のまちづくりと文化

<①江戸城の改築等で全国各地から江戸に木材が集積、貯木場「木場」が発展>

木遣り唄／木場木遣保存会



<②江戸木版画や江戸指物など、木を使った伝統工芸品の紹介>



<③建築労働者の鷹を中心に選ばれた「町火消」の活躍、江戸の火消文化の紹介>

「梯子乗り」パフォーマンス／（一社）江戸消防記念会



■ フェーズ2：大都市東京の活動と暮らしを支える森林と木材

<①森林の機能の説明>

<②東京の地域材である多摩産材の紹介>

竹製の楽器による演奏

／能楽師笛方、和洋笛演奏者

いっそう

一噌幸弘



<③多摩や島しょ地域に広がる森林・自然と親しむ都民>

森林や登山に親しむ姿を表現する
創作ダンス

／日本女子体育大学附属二階堂高等学校
ダンス部等



■ フェーズ3：日本の誇るべき木材利用文化の継承と発信

<①木材利用を進め、森林循環を促進>

<②新たな木造建築技術であるCLTなど、未来に向けた木材利用の可能性>

<③東京2020大会関連施設等での木材利用の推進と日本が誇る木材利用文化の発信>

「Stand Alone」独唱／森麻季(オペラ歌手)



写真/Yuji. Hori

<式典行事・アトラクション等の出演者一覧>

項目	役割	出演候補者（予定）
総合司会者	○式典全体の司会進行	(調整中)
ナビゲーター	○メインテーマアトラクションの進行 ○親子（父娘）の設定	
式典アテンダント	○式典登壇者の誘導等	○式典会場近隣自治体の高校生
式典「吹奏楽隊」	○式典における音楽演奏	○東京消防庁音楽隊 ○都内高校生
式典「合唱隊」	○オープニングアトラクションの童謡メドレー等の歌唱	○式典会場近隣自治体の学校
武蔵国府太鼓	○オープニングアトラクション	○武蔵国府太鼓連盟
木遣り唄	○メインテーマアトラクション	○木場木遣保存会
梯子乗り		○（一社）江戸消防記念会
竹製楽器の演奏		○一噌幸弘 （能楽師笛方、和洋笛演奏者）
創作ダンス		○日本女子体育大学附属二階堂 高等学校ダンス部等
「君が代」独唱 「Stand Alone」独唱 「花は咲く」合唱	○式典での国歌独唱 ○メインテーマアトラクション ○エンディングアトラクション	○森麻季 （オペラ歌手）
ビデオメッセージ	○エンディングアトラクション	○東京で林業や木材産業に携わる若者・女性

3 式典会場計画

■ 会場設営

- 式典会場は、既存の施設である「武蔵野の森総合スポーツプラザ」を使用し、低コスト化を図りつつ、御席やエントランス等に多摩産材等を活用した設営・装飾を行うなど、森林・林業の祭典にふさわしい会場づくりを行います。

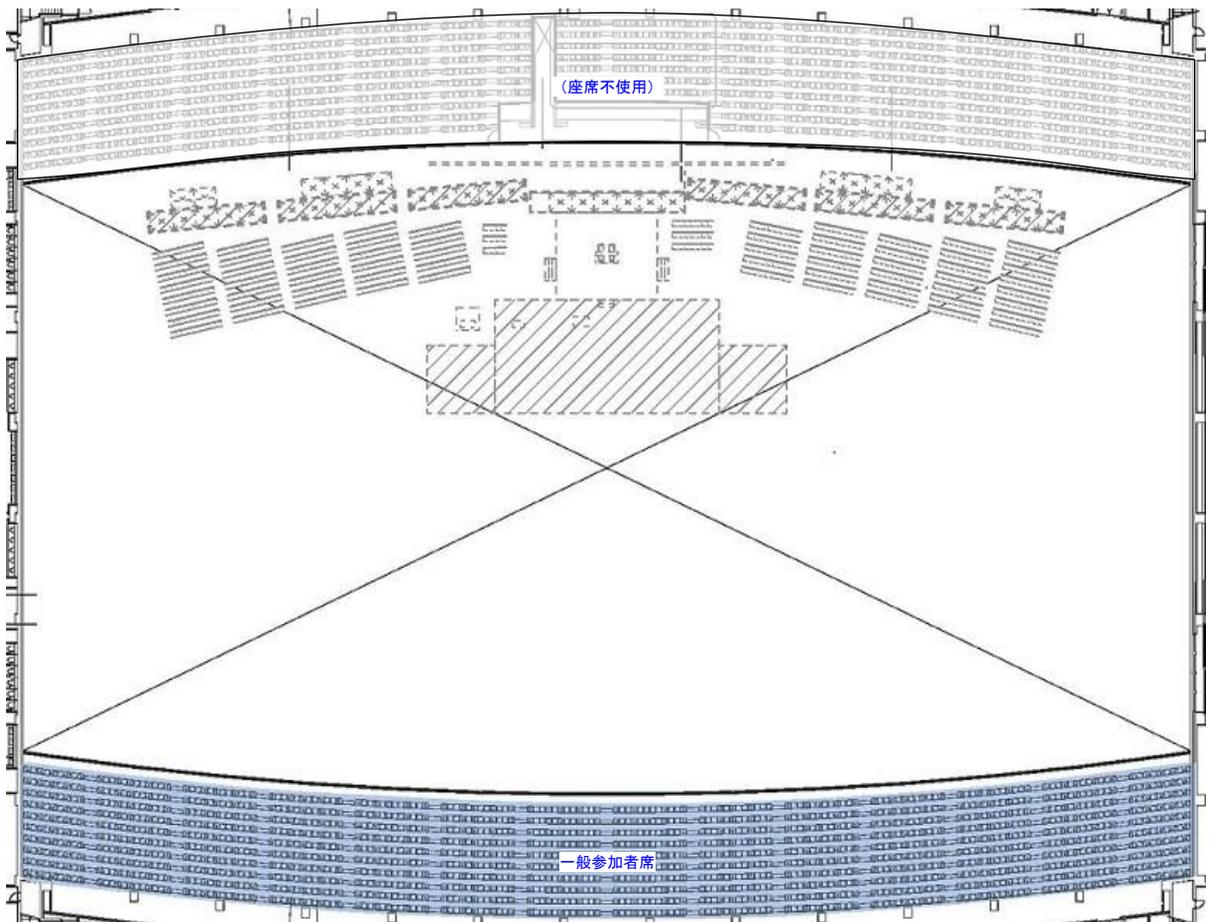


式典会場イメージ

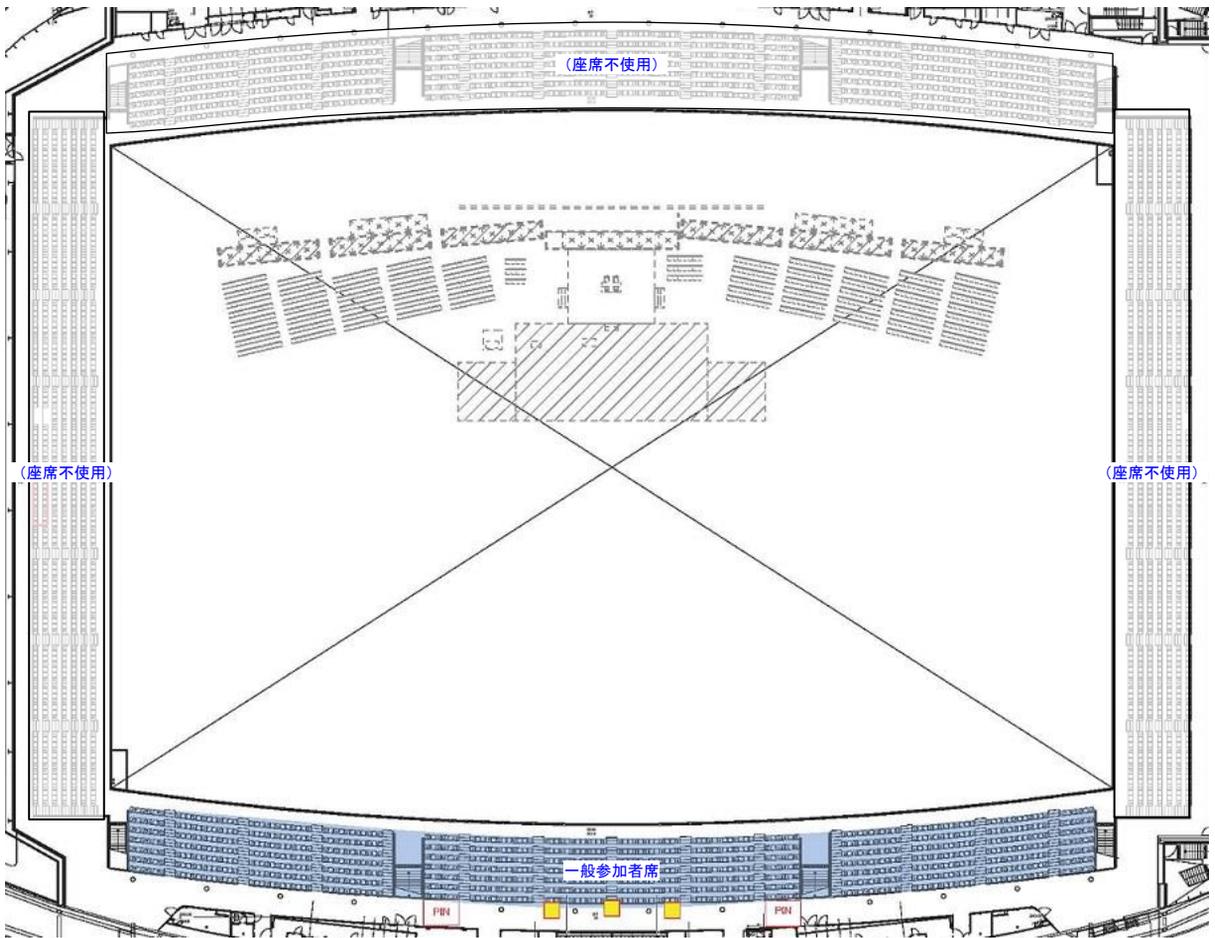
第4章 式典行事計画



式典会場内レイアウトイメージ（1階部分）



式典会場内レイアウトイメージ（3階部分）



式典会場内レイアウトイメージ（4階部分）

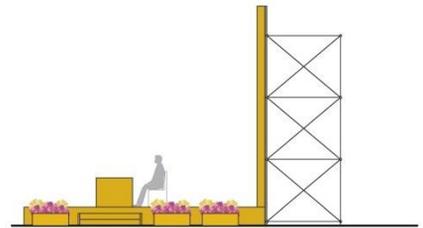
■ 御席等

- 御席等は皇族殿下がご臨席になられるにふさわしく、式典会場のシンボルとして多摩産材で装飾し、「木の良さ」「木の魅力」を発信します。
- 御席のバックパネルでは、森林が成長する過程を表現し、森づくりの大切さを示します。



御席／京都府の例

<御席イメージ>



<バックパネルイメージ>



■ エントランス等

- メインエントランス、3階ホワイエ、1階ホワイエには多摩産材等で製作した歓迎ボードを設置し、式典参加者を迎え入れます。また、都内産の花で飾花します。
- メインエントランスの壁面に多摩産材等で製作したパネルを設置します。
- 飾花の育成等、開催に向けて協力を頂いた方々に関する紹介ボードを設置し、参加者の皆様にご案内します。
- 式典会場内及びその周辺に飾花プランターを設置して、会場の雰囲気を引き立てます。



会場エントランスイメージ

4 飾花・木製工作物計画

(1) 飾花計画

■ 飾花計画

- 飾花には都内産の花を使用し、式典会場等を彩るとともに、参加者の安全かつ円滑な導線の確保に配慮して配置します。
- 飾花プランターを入れるカバーには、多摩産材で製作したプランターカバーを使用し、会場内の木質感を演出します。
- 全国育樹祭終了後、プランターカバーを製作した学校等に配布することで、全国育樹祭の理念を子供達に伝えます。



飾花／香川県の例



プランターカバー（多摩産材）



飾花の候補（パンジー）



飾花の候補（ストック）



飾花の候補（ビオラ）



飾花の候補（コギク）

■ 飾花育成

- 都立の農業関係高等学校等の協力により、飾花を育成します。

■ 木製プランターカバー製作

- 都内の小学校等の協力により木製プランターカバーの製作を行い、次代を担う都民の参加を推進します。

■ 協力学校・団体

内 容	内 訳
飾花育成（9校）	都立農業関係高等学校等
プランターカバー製作 （42校・9団体）	調布市立小学校
	府中市立小学校
	三鷹市立小学校
	都立特別支援学校
	都内緑の少年団

(2) 木製工作物

- 「T O K Y Oおもてなしコーナー」(式典会場)等の参加者席に、多摩産材の木製ベンチを製作し、設置します。
- 式典会場の三旗掲揚台等の仮設工作物は多摩産材を使用し、会場内に木質感を演出します。



木製ベンチ／京都府の例



三旗掲揚台／埼玉県の例

(3) 贈呈用苗木の育成

- 都内の緑の少年団の協力により、贈呈用苗木の育成を行います。
- 東京都の多様な地域性を象徴した以下の樹種の苗木を育成します。



<イチョウ>

「都の木」であり、街路樹として多く利用されていることから「東京の都市部」を象徴

<コナラ>

里山の雑木林における主要な構成種であり、薪炭材として利用されていた「武蔵野の丘陵地」を象徴



<ヤマザクラ>

多摩地域の山々に多く自生し、春に咲く花は山々に彩りを添えてくれる「多摩の山岳地」を象徴



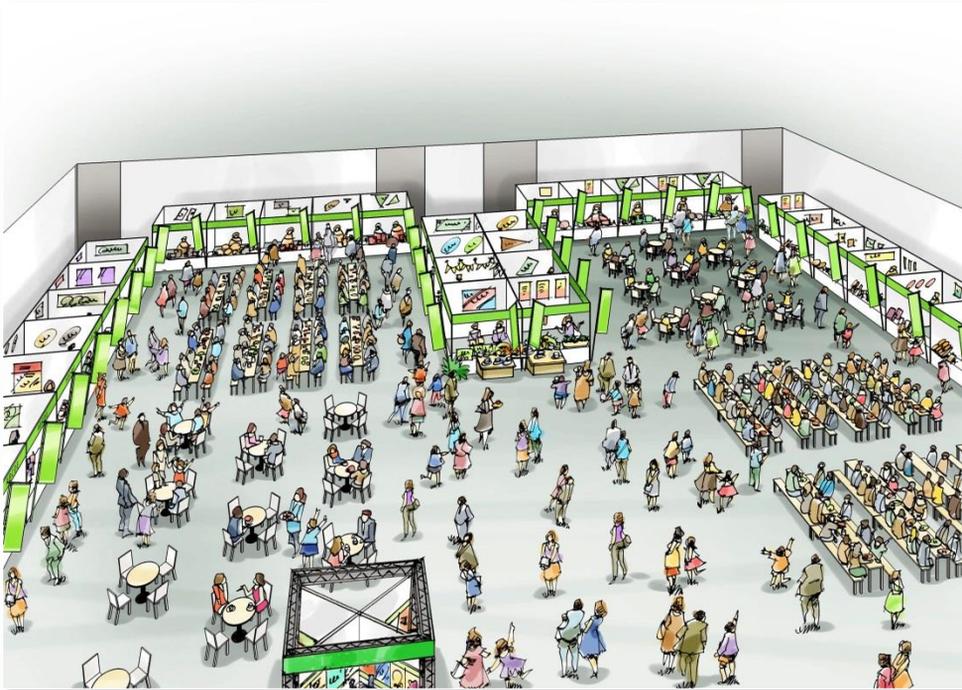
<ヤブツバキ>

伊豆諸島の大島、利島が全国有数の産地である椿油の原料となる実をつける樹種であり、「東京の島しょ部」を象徴



5 TOKYOおもてなしコーナー

- 式典会場のサブアリーナにTOKYOおもてなしコーナーを設けます。
- 式典参加者に東京の魅力的なおみやげ（加工品・特産品）と都内産食材を使用した飲食物を提供します。
- 東京の森林・林業の取組とともに、東京観光等のPRを実施します。



TOKYOおもてなしコーナーイメージ

- TOKYOおもてなしコーナーには次のブースを設けます。

区分		実施内容
販売コーナー		東京の特産品や加工品、木を使った工芸品等の紹介・販売
展示コーナー		東京都の森づくり活動や木の活用に向けた取組についての展示・紹介、多摩・島しょ地域の観光案内等
その他	総合案内所	式典参加者に対するきめ細やかな案内を実施
	湯茶提供ブース	式典参加者に対する湯茶の提供
	休憩所	式典参加者が自由にくつろげるよう、テーブルやベンチを設置

6 昼食計画

- 式典参加者に式典弁当を提供します。
- 新鮮な都内産農林水産物を豊富に使用するとともに、江戸から東京150年の節目を飾る郷土料理・食材を用いて、東京の食の魅力が十分伝わる献立とします。
- 木材の大消費地東京として、木材利用を進める観点から、弁当箱・箸には多摩産材を活用し、お茶は間伐材を利用した紙パックで提供します。
- 弁当の製造、輸送、保管、配布において、徹底した衛生管理を行います。

<献立イメージ>

東京産小松菜おひたし ・ 島しょ産明日葉漬物	東京産野菜の煮物	東京産の果物
あさりごはん (深川めし)	日の丸ごはん ※ 岩手、宮城、福島県産米を使用 (予定)	海苔ごはん
鶏の江戸味噌焼き	TOKYO Xを利用した 肉料理	島しょ産海産物の さつまあげ

■ 昼食場所

- 式典参加者の昼食は、会場内で弁当を配布し、原則として座席で食べていただきます。
- 出演者、実施本部員等は、それぞれ業務に従事する場所での昼食（弁当）とします。

1 育林交流集会

育林交流集会は、全国の林業関係者はもとより、次代を担う大学生や高校生、ボランティアなど、森林・林業に関心の高い人たちが参加し、森林・林業が直面する課題等をテーマに講演等を行います。

- 主催／東京都、公益社団法人国土緑化推進機構
- 開催日／平成30年11月17日（土曜日）
13:00～16:30（予定）
- 開催場所／青梅市総合体育館（青梅市）
- 参加人数／500人程度
- 行事内容／基調講演、パネルディスカッション等



育林交流集会／山形県の例

内 容	
歓迎 アトラクション	<ul style="list-style-type: none"> ○ 青梅市PR映像の上映 ○ 青梅市にゆかりのある方へのインタビュー（ビデオ） <ul style="list-style-type: none"> ・「多摩川の筏流し」について ・「愛林日植樹行事」について ○ お山の杉の子（青梅市モチーフ）合唱
主催者あいさつ	（公社）国土緑化推進機構、東京都
来賓祝辞	林野庁、（一社）全国林業改良普及協会
歓迎のことば	青梅市
基調講演	今井通子氏（登山家、医学博士）
パネルディスカッション	<p>【テーマ】 森を育て、木を使うことによる持続可能な暮らしを未来へつなぎ、健全で活力ある森林を次世代に継承するため、私たち一人ひとりができることを考える機会とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コーディネーター ○ パネリスト <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林所有者（育林の現状、課題、森林を活用した取組） ・ 企業（木材の新たな活用、企業と木との関わり方） ・ ボランティア 又は ジャーナリスト（一人ひとりができること）
閉会のことば	東京都

2 全国緑の少年団活動発表大会

全国緑の少年団活動発表大会は、全国から選出された緑の少年団や都内の緑の少年団等が集い、日頃の活動状況の発表や情報交換等を通じて、相互の研鑽と交流を図ります。

また、少年団同士の交流を一層深めるため、発表大会終了後、別会場に移動してレクリエーション等を中心とした交流集会を行います。

- 主 催／東京都、公益社団法人国土緑化推進機構
- 開 催 日／平成30年11月17日（土曜日）12:00～15:00（予定）
- 開催場所／八王子市南大沢文化会館（八王子市）
- 参加人数／500人程度
- 行事内容／全国の緑の少年団による活動発表、各種表彰等

内 容	
歓迎 アトラクション	○ 八王子市PR映像の上映 ○ 和太鼓 鼓一
団旗入場	各団発表者がプラカードと団旗を持って入場
主催者あいさつ	（公社）国土緑化推進機構、東京都
歓迎のことば	八王子市
励ましのことば	林野庁
活動発表	5団体（東京都代表、ほか4道府県代表）
特別講演	後藤瑞穂氏 （樹木医、（株）木風 代表取締役、NPO法人フォーエバーツ リーネットワーク代表理事）
表彰・講評	<講 評>（公社）国土緑化推進機構 <各種表彰>（公社）国土緑化推進機構 ・みどりの奨励賞表彰：活動発表5団体 ・緑の少年団育成成功労者表彰：7～10名
閉会のことば	（公社）国土緑化推進機構

■ 交流集会

- ・開催場所／高尾の森わくわくビレッジ（八王子市）
- ・参加人数／150人程度
- ・行事内容／全国の緑の少年団によるレクリエーション等

内 容		
発表 大会後	南大沢文化会館出発	バスで移動
夕方～夜	高尾の森わくわく ビレッジ到着	
	交流集会（体育室）	他の団員同士がコミュニケーションをとれる木 を活用したレクリエーションなど
	就寝	
翌朝 （式典当日）	式典会場に出発	点呼確認、車内で朝食



全国緑の少年団活動発表大会／岐阜県の例



交流集会／京都府の例

1 森林・林業・環境機械展示実演会

林業関係者に対して、機械化による施業の効率化や安全に関する情報を提供するとともに、一般の参加者にも林業機械に対する関心・理解を高めてもらい、担い手を育成する契機とするため、国内外のメーカーが開発・改良した最新の森林・林業・環境機械を一堂に集めた展示・実演会を行います。

- 主 催／東京都、一般社団法人林業機械化協会
- 開 催 日／平成30年11月18日（日曜日）9:00～16:30（予定）
19日（月曜日）9:00～15:00（予定）
- 会 場／旧都立秋川高等学校跡地（あきる野市）
- 参加人数／20,000人程度
- 行事内容／高性能林業機械等の展示実演、物販・飲食ブースの設置等



森林・林業・環境機械展示実演会／京都府の例

■ スケジュール

<11月18日（日曜日）>

内 容	
オープニング セレモニー	主催者あいさつ（東京都、（一社）林業機械化協会）
	来賓あいさつ（林野庁）
	歓迎のことば（あきる野市）
	テープカット
歓迎アトラクション	あきる野市の郷土芸能（太鼓等）
展示実演会	国内外の林業機械メーカー等

<11月19日（月曜日）>

内 容	
展示実演会	国内外の林業機械メーカー等

2 その他の記念行事

- 全国育樹祭の開催機運を高めるとともに、都民参加の森づくりや木とのふれあいを進めていくために、広く都民が参加できる記念行事を都内各地で開催します。
- 広報活動と連携しながら、全国育樹祭の開催意義を林業関係者や関係団体等にとどまらず、幅広い都民に普及していきます。

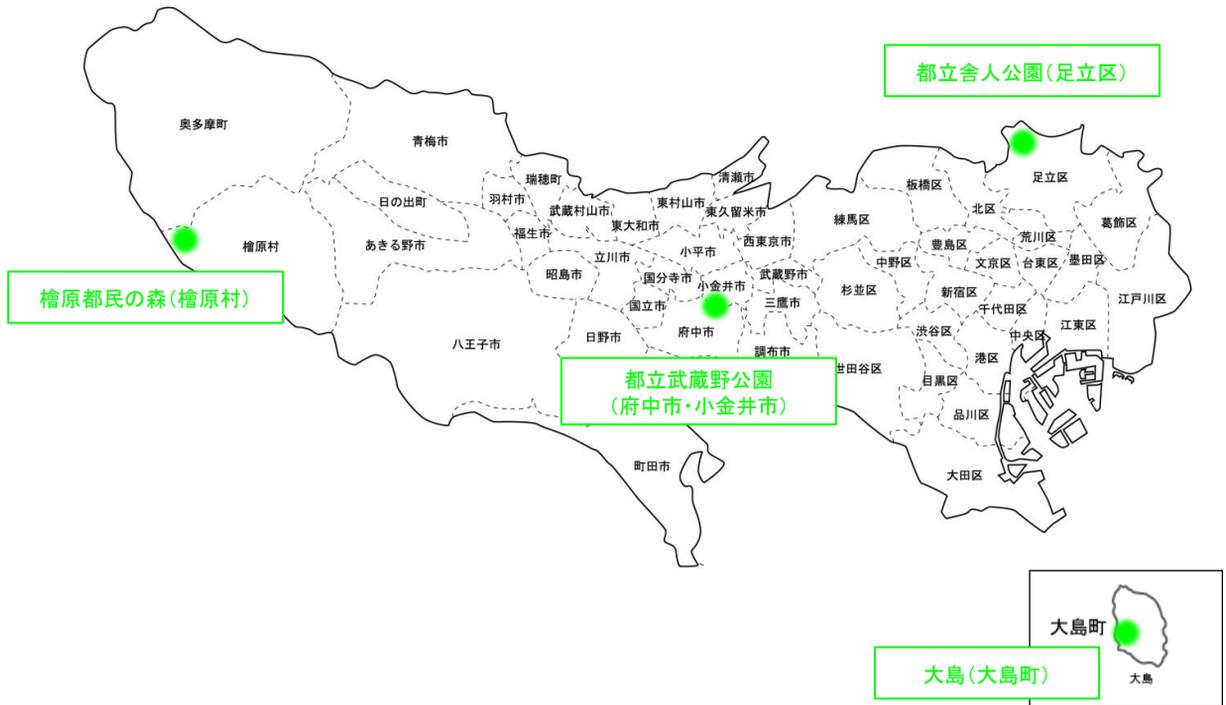
<区市町村・関係団体等との連携>

東京都が主催するイベントのほか、区市町村や関係団体等が実施する関連イベント等を全国育樹祭の記念行事と位置づけ、育樹祭の開催機運を醸成していきます。



都民育樹行事の概要

多くの都民が森林や木の魅力に触れることのできるプレイベントを都内各地（区部・市部・町村部・島しょ部）で展開し、全国育樹祭の開催機運を醸成するとともに、森づくりへの参加を促進するため、都民育樹行事を開催します。



(1) 都立武蔵野公園（府中市・小金井市）

- 開催日／平成30年4月15日（日曜日）
- 行事内容／フェスティバル型のイベント
育樹活動、木工体験、苗木配布、
ステージパフォーマンス



(2) 大島（大島町）

- 開催日／平成30年5月20日（日曜日）
- 会場／砂の浜保安林、東京都大島支庁
さのはま
- 行事内容／親子参加型ツアー
保安林補植、
多摩産材の椅子製作



(3) 都立舎人公園（足立区）

- 開催日／平成30年5月27日（日曜日）
- 行事内容／フェスティバル型のイベント
育樹活動、木工体験、苗木配布、ステージパフォーマンス



(4) 檜原都民の森（檜原村）

- 開催日／平成30年8月25日（土曜日）
- 行事内容／親子参加型体験イベント
育樹活動、セラピーロード散策、木工教室

内 容	
集合・解散	武蔵五日市駅
開会セレモニー	主催者あいさつ、歓迎のことば 歓迎アトラクション（太鼓等）
体験プログラム	育樹活動、セラピーロード散策、木工教室



檜原都民の森／檜原村



育樹活動（施肥）／香川県の例

1 方針

- 皇族殿下のご臨席のもと、全国から5,000人程度が集う大会であることを踏まえ、安全確保を最優先した運営を行うとともに、不測の事態にも速やかに対応できる体制を整えます。
- 効率的でありながらも、必要な配慮の行き届いたきめ細かい運営を行い、誰もが安心・快適に参加できる大会を実現します。
- 関係する機関、団体等との緊密な連携、協力体制を整えます。

2 実施本部計画

- 平成30年7月頃に都知事を本部長とする「第42回全国育樹祭 東京都実施本部」を設置します。
- 行啓担当、報道担当、接遇担当、会場受付・案内担当、宿泊・輸送担当など臨時的なオペレーション組織を編成します。

3 参加者・宿泊・輸送計画

区分	人数	内訳	宿泊	輸送
中央参加者	200人程度	国（農林水産省、林野庁等）関係者、全国の林業・木材団体の長 等	—	公用車、自家用車、公共交通機関等
都内林業・木材産業関係者	1,600人程度	緑化功労者、林業・木材産業関係者、東京都関係者、区市町村関係者 等		
都外林業・木材産業関係者	700人程度	各道府県の林業・木材関係者 等	宿泊あり 〔新宿、池袋、品川、立川等のホテルを手配〕	貸切バス
一般公募参加者	1,000人程度	一般公募による参加者	—	公共交通機関
出演者、実施本部員等	1,500人程度	出演者及びその随行者、実施本部員等		貸切バス、公共交通機関等
合計	5,000人程度			

4 受付計画

(1) お手入れ行事

会場等に実施本部員を配置し、受付・案内を行います。

(2) 式典行事

■ 宿泊する参加者

宿泊する参加者については、式典行事前日、宿泊施設にて1回目の受付を行い、式典当日に2回目の受付を行います。

■ 宿泊しない参加者

宿泊しない参加者は当日会場にて受付を行います。

前日受付、当日受付とも、参加者数に対して十分な受付ブースを用意することで、確実な本人確認やセキュリティチェックを行いながらも、スムーズに受付できる体制を構築するものとします。

5 大会用品・記念品計画

■ 大会参加者には、識別用グッズ、大会プログラム、記念品等を配布します。

■ 記念品の選定にあたっては、東京都らしく、かつ森林・緑の祭典にふさわしい品とするとともに、遠方からの参加者が持ち帰りやすいものとします。

■ 式典会場内への手荷物の持込には制限がかかるため、配布するタイミングを工夫するとともに、事前に十分に説明することで、入場ゲートでの手荷物検査を円滑に行えるようにします。

6 医療・衛生計画

(1) 医療・救護

- 行事当日及びリハーサルにおいて、傷病等の発生に備えるため、医療・救護体制を整えます。
- 式典会場等に救護所を設置し、傷病者の医療救護を行います。救護所には、医薬品や休憩用ベッドを備えます。
- 消防署や近隣医療機関の協力を得て、緊急時の搬送態勢を整えます。
- 会場や宿泊施設、輸送時において、傷病等が発生した場合、素早く適切に加療にあたれるよう、医療・救護対応フローを作成します。

(2) 衛生対策

- 保健所等の協力を得て、食品衛生や環境衛生について、関係機関と協議を行い、衛生対策体制を整備します。
- 食の安全を期すため、弁当業者や宿泊施設、会場内の食品提供団体等の指導を徹底します。
- 飲食等により発生する廃棄物は適切に処理を行い、会場及び周辺環境美化に努めます。

7 消防・防災・警備計画

(1) 消防・防災

- 火災、地震等の災害が発生した場合には、参加者の安全確保を最優先とした運営を行います。
- 消防、警察その他関係機関との協力体制を築き、緊密な連携を図ります。
- 特に危機管理については、責任者を明確にするとともに、緊急事態等の発生に備え、対応マニュアルや避難計画等を準備し、実施本部員に周知徹底します。
- 実施本部が中心となり、異常の早期発見、通報に努めます。
- 会場内は、喫煙所を除いてすべて禁煙とし、必要に応じて消火器を設置します。

(2) 警備

- 会場内での事件・事故を防止し、円滑な運営を図るため、警察等関係機関と緊密に連携して警備を実施します。
- 警備員や実施本部員などを配置して、警備や車両の整理、参加者の誘導を行います。
- お手入れ会場及び式典会場の入場ゲートでは、本人確認書類との照合を行うとともに、金属探知機による持ち物検査を実施します。
- 会場に仮設物等を設置し撤去するまでの間、必要に応じて夜間警備員を配置するなど、無許可者の侵入やいたずらの防止を図ります。

8 雨天・荒天時対応計画

■ 判定会議の開催

- 荒天時等（暴風・強風等）で行事を計画どおりに実施することに懸念が生じた場合は、判定会議を実施し、お手入れ行事及び式典行事等の開催を判断します。
- 開催の判断は、警報・注意報の発令や交通機関の運行状況等を参考に行います。

■ 決定内容の通知について

- 荒天により中止とすることが決定された場合には、関係者に直ちに通知します。また、全国育樹祭ホームページ及びテレホンサービスにより、情報提供を行います。

9 協賛計画

(1) 資金協賛

育樹祭行事の実施に要する資金の提供

(2) 物品協賛

育樹祭行事の実施に要する物品の提供

(3) その他

役務の提供、広告掲出などによる協力

開催準備スケジュール

月	平成30年
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 都民育樹行事（都立武蔵野公園） ○ 式典行事の「一般参加者」公募開始
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 都民育樹行事（大島） ○ 都民育樹行事（都立舎人公園）
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「第69回全国植樹祭」（福島県）開催
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「第42回全国育樹祭 東京都実施本部」設置
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 都民育樹行事（檜原都民の森）
9月 10月	<ul style="list-style-type: none"> ○ パート別リハーサル（各出演者・実施本部）
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合リハーサル ◎ 「第42回全国育樹祭」開催（11月17日・18日）

第42回全国育樹祭 実施計画

平成 30 年 2 月 発行

編集・発行：第42回全国育樹祭東京都実行委員会

（東京都産業労働局農林水産部森林課内）

東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話：03-5320-4671